

パソコン教室 から 普通教室へ

いつでもどこでも使える
タブレット環境が
授業の質を高める！

宮古島市教育委員会

住所：沖縄県宮古島市城辺字福里600-1
URL：http://www.city.miyakojima.lg.jp/
soshiki/kyouiku/

2020年に本格実施される次期学習指導要領で実現をめざす、主体的、対話的で深い学びの実現に向け、ICTの活用が重視されている。そのため宮古島市教育委員会では、児童生徒が日常的にICTを活用できる環境が重要だとし、タブレットを導入した。パソコン教室から普通教室へ、これまで取組んできた授業改善にICTが加わり、より多様な学びへと発展している。



[取材協力]宮古島市立久松中学校



目 的

- 学習におけるパソコンの利用率を上げたい
- 校内外で場所を選ばず利用させたい
- 1クラス分のタブレットを簡単にネットワークに接続させたい

ア プ ロ ー チ

- ◎ 可搬型のタブレットを選定
- ◎ 利用場所を限定しないセルラーモデルを選定
- ◎ 同時接続に強いLTEネットワークを選定

教師の負担が少なく、授業が止まらない環境を最優先



宮古島市教育委員会（沖縄県）は、2016年度から次期学習指導要領の本格実施に向け、ICT環境の整備に乗り出した。最初に着手したのは、実証校である久松中学校へのタブレット導入だ。情報活用能力の育成、プログラミング教育などICT活用が重要視された次期学習指導要領を実施していくためには、普通教室で端末を使える環境が欠かせない。パソコン教室に移動してわざわざICTを使うのではなく、日常的にいつでもどこでも使える環境を整備することが重要だと判断したのだ。

タブレットの導入について同市教育委員会の下地洋子氏は「先生がストレスなく使えることを最優先しました。そのためには、持ち運びしやすいことや、通信障害によるパソコントラブルによって授業が中断しないことが



重要だと考え、セルラーモデルのタブレットを選択しました」と語る。

ICT活用で次代に通用する人材育成を

その後、久松中学校での1年間の実証実験を通して手応えを得られたことから、2017年度は市内の中学校1校、小学校4校に取組みを拡大し、計200台の端末を導入して実践を続けている。

同市教育委員会の砂川誠氏は、「学習指導要領の本格実施に向けてICT環境を整備することはもちろんですが、宮古島市では第4次産業革命の時代を生きる子どもたちが必要とされる情報活用能力を身につけ、地域を担う人材になってほしいと考えています」と語る。そのためには学校でのICT活用を積極的に進め、宮古島からも次の時代に通用する人材を育成していきたいと想いを述べる。



左：宮古島市教育委員会 教育部 学校教育課 指導主事 砂川誠氏
右：宮古島市教育委員会 教育部 学校教育課 学務係 補佐兼係長 下地洋子氏

職業体験にタブレットを持参。困ったときは職員室の教師に連絡

ICT環境が、これまでの学びを発展させる

タブレット導入から2年目に突入した久松中学校では、あらゆる教科でICTが活用されている。同校の平良善信校長は、「以前から、授業の効率化や授業力向上に注力してきましたが、タブレットは、それを高めるツールとして大変有効だと思います」と語る。スライドを活用した板書、デジタル教材を用いた資料提示、調べ学習やプレゼンテーションなど、教師や生徒の使いたい時に応じて、スイッチひとつでICTを活用できる。この環境が、これまでの学びを発展させているというのだ。

興味深いのは、中2の職場体験での活用だ。受け入れ先の企業に生徒がタブレットを持参し、職員室にいる教師に状況を報告したり、困ったときにアドバイスを求めたりした。「以前は、教師が受け入



れ先を巡回していましたが、タブレットを使うことでリアルタイムに生徒とやりとりができるようになりました」と平良校長は語る。学校外でも生徒の活動を見守ることが可能になったのだ。



生徒たちに主体的な学習の場を

平良校長はタブレット活用を振り返り、「生徒たちのプレゼン力、伝える力は格段に向上したと思います」と手応えを語る。映像や資料を使って伝えたいことを表現したり、調べた内容を簡単にまとめたりできることは、発表意欲の向上につながっているという。「タブレットを活用することで、学校や授業のなかで伝える場を多く作ることができています。生徒たちも、発表を意識して調べ学習に取り組んだり、自分の考えを伝えようと熱心にまとめる姿も見られます」（平良校長）。伝える場や手段が増えるからこそ、学習に前向きになれる。生徒たちに対して主体的な学習を促しているといえる。



平良善信校長

今後は修学旅行や持ち帰り学習、保健室登校にも利用を拡大



影し、授業支援システムを用いて、その場ですぐに材質の特徴や違いをレポートにまとめた。また、体育の授業では、組体操の動きを動画に撮影して友達と出来栄を確認したり、動画サイトにアクセスして見本の動画を視聴したりもする。ほかにも、英語の授業では、宮古島のビーチに来た外国人に英語でインタビューし、その様子を動画

久松中学校では、教室の外へタブレットを持ち出して活用する場面が多く見られる。技術の授業では、さまざまな教室にある椅子を写真に撮

に撮影するなど、さまざまな教科で教室の外へ飛び出し、多様な学びを実践している。

同校の松本尚教頭は、「パソコン教室でパソコンを使う授業は、お決まりのことしかできません。しかし、タブレットは教師のよりよい授業づくりに対



右：本村恵作教諭



する意欲を刺激することができ、学習活動を広げることができます」と語る。同校では今後、修学旅行や持ち帰り学習、保健室登校などでもタブレット活用を検討しており、さまざまな学習形態を探求していきたいと松本教頭は抱負を語る。

お問い合わせ

株式会社NTTドコモ

ドコモ・コーポレートインフォメーションセンター（☎0120-808-539）

受付時間 平日午前9時～午後6時（土・日・祝日・年末年始を除く）

ドコモのホームページ 法人のお客さま
教育の場にICTを！

https://www.nttdocomo.co.jp/biz/special/education_ict/



※本チラシの内容は2017年7月取材時点のものです。